

第1回

日本認知症の人の 緩和ケア学会学術集会

—いま、どうして認知症の緩和ケアを問うのか—

演題募集期間を延長いたしました

演題募集期間

2025/2/18(火)まで

開催日 2025年4月20日(日)

会場 WEB配信
オンデマンド配信: 2025/4/27(日)~2025/7/31(木)

参加費 学会員:3,000円 非会員:5,000円 (不課税)

学術集会長 小川 朝生 国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科 科長

副学術集会長 鈴木 みずえ 浜松医科大学 臨床看護学講座 教授

学術集会HP
はこちら



<https://procomu.jp/jspcd2025/>

一般社団法人 日本認知症の人の緩和ケア学会第1回学術集会運営事務局
〒135-0063 東京都江東区有明3-6-11 TFTビル東館9階
株式会社 プロコムインターナショナル内

TEL: 03-5520-8821 FAX: 03-5520-8820 Mail: jspcd1@procom-i.jp

開催事務局

第1回学術集会の主なプログラム

シンポジウム

● 身体拘束最小化に関連した検討

2024年度の診療報酬改定で身体拘束最小化チームの強化が義務付けられたが、現場では、身体拘束の実施の有無に固執しがちである。身体拘束最小化の本来の目的は、認知症ケアの質の向上や認知症の人の尊厳をいかに守るかである。そこで、当事者・安全管理者・法律家・看護師などさまざまな立場のシンポジストからご意見を頂き、認知症の人の尊厳を守るための安全管理と穏やかな生活をめざした身体拘束最小化を考える。

● BPSD、チャレンジング行動

BPSD (challenging behavior)について整理する。

薬物療法については、精神症状緩和という本来の目的と薬理学的鎮静との誤解をとくために、薬物療法の基本から解説する。

非薬物療法については、BPSDケアプログラムを紹介する。

● 認知症の軌跡を踏まえた支援

認知症の人のQOLを維持する上で、認知症がフレイルの一つであることを認識することは重要であるが、どうしても身体的な側面は見逃されがちである。療養のセッティングの違いをこえて切れ目のないケアを考える上で、認知症の軌跡を踏まえた支援を共有することが重要である。認知症の中核症状へのケアだけではなく、身体面を踏まえた包括的な支援について考える。

● 認知症の人とのコミュニケーション（しゃべり場）

認知症の人の苦痛を緩和するため、認知症の人とのコミュニケーションで、なかなかうまくいかない場面を、ちょっとしたアイデアや工夫でうまくいった事を取り上げる。

※タイムスケジュール、演者は決まり次第、更新いたします

